

東濃鉄道 笠原線

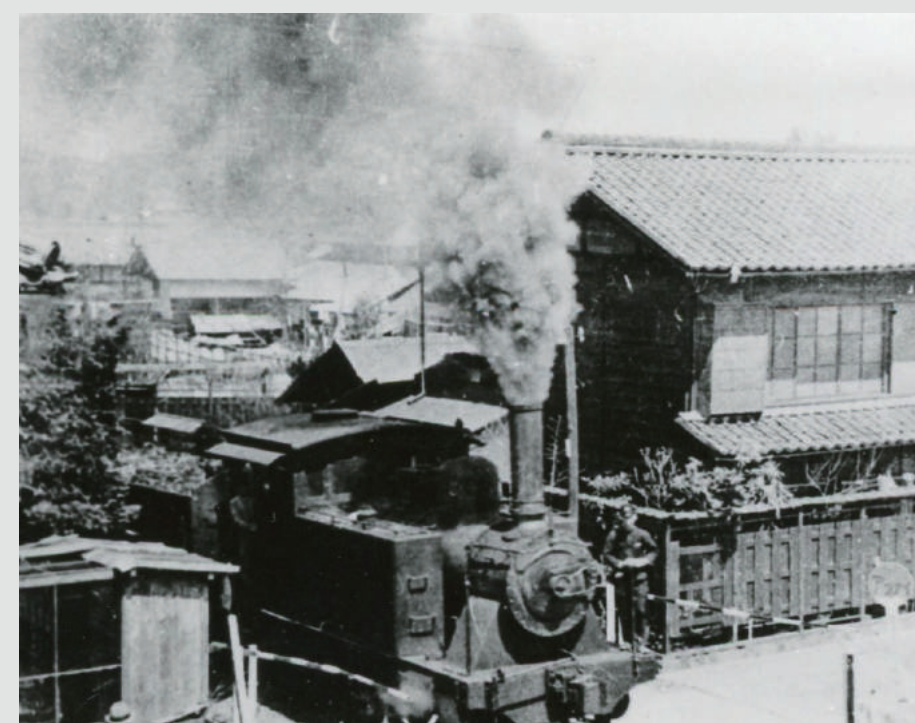
笠原と多治見をつないだ東濃鉄道笠原線、通称【笠鉄】。開通よりかぞえて 95 年、廃線 45 周年にあたる笠鉄の歴史をご紹介します。

陶磁器生産地の瀬戸や土岐と接し、窯業原料も豊富な笠原の地の利を活かしたいと考える住民の間で【笠原―多治見】間を結ぶ鉄道の計画が持ち上がりました。大正13年（1924）に創立総会が開かれ、笠原電気鉄道株式会社が正式に発足しました。

笠原電気鉄道株式会社の創立

笠原鉄道開通

昭和3年（1928）に全長4.6メートルの鉄道が開通、当初は一日五往復でした。物資や陶磁器輸送のほか、住民の足としても活躍しました。「手を振ったら列車が停まってくれたので乗り込んだ」「土岐川の鉄橋の上を歩いていたら列車が来たので橋げたにぶら下がったところ、あとで大層しかられた」などという嘘のような話も残っています。



昭和初期 田代町の踏切を渡る笠原鉄道の機関車



写真提供 笠原中央公民館



東濃鉄道笠原線に

昭和19年（1944）に駄知鉄道など6社と合併し、東濃鉄道株式会社を設立。東濃鉄道 笠原線となり、陶磁器原料や製品を輸送しました。市之倉口駅には東京窯業への引き込み線もありました。



写真提供 笠原中央公民館

C-2 型貨車移動機 東京窯業の製品を輸送するのに使われた 現在、市之倉さかづき美術館広場で保存

乗客数の減少により、昭和46年（1971）に旅客鉄道の休止が決まり、53年（1978）には、貨物輸送も廃止されました。「陶彩の径」として整備された線路跡は現在、散策やお花見コースとして親しまれています。

笠原線のその後

多治見について調べるなら
郷土資料室へ

地域に関する資料や皆様から寄せられた文書や記録などを、整理・保存しています。資料は、調べ学習や研究にもご利用いただけます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までどうぞ。皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供などもお待ちしております。



多治見市図書館郷土資料室

〒507-0034 多治見市豊岡町 1-55 ヤマカまなびパーク 4 階 JR 多治見駅より徒歩 5 分 TEL. 0572-23-3783

開 室：火～土曜日 10 時～17 時（日・月・祝日・年末年始は休室）※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください。